

# フリックス ③チーゾ

FURIKUSU-CHI-JO

チクチン巡り後編



初対面のヨーコちゃんと

仲良く残りザーメンを

私の走りします♡

「いいいいんですかあ？」

「うわぁ……私、

「おちんじょさんの

「パンこそすり

「つけてるう……♡」

「こすられて♡」

「射精しちゃうと♡」

「量が多すぎるので♡」

「耐えながら朝食を摂ります。♡」

「ふふ……可愛いなあ♡」

「ヨーコちゃんは♡」

「たっぷり私のは♡」

「子種を食べてね♡」

「あ……♡」

「チーゾさんの♡」

「赤ちやんのタネ……♡」

「朝食はこれで♡」

「食べられる……♡」

「ヨコちゃん♡」

「興奮が目に見える♡」



私のゲーメンを飲み込んでいくたびに  
とろーんとした表情に。  
「あ、見てアリスさん、ヨーコちゃんが……」  
「うわあ……さすがチーゾヨさん、  
もうヨーコちゃんに火が  
ついちゃったみたいね♪」

どんどんスケベ顔に  
なっぺいくヨーコちゃん♡  
私のゲーメンを全部  
平らげて性欲が頂点に  
達したみたいで♡



「も、もう抑えられない……っ  
そう言っって服を脱ぎだします。」

露わになつたソレは  
痴女の私も  
驚きを隠せません。

ん!?





まるで重力を無視するかのよう  
に巨大にそり立つチクチンに  
圧倒されます。

っつはあ……っ♡♡んなんに  
ポッキしたの久しぶりい……♡  
早くシコシコしたあい♡  
どうやら火がつくとどっでも  
スケベな女の子になるみたい♡  
それにしても  
チクチンを持つ女の子すら  
珍しいのにこんな巨根チクチンに  
出会えるなんて……♡  
今からこれを味わえるのが  
楽しみであります♪



「っんぎいっ♡イクう♡  
見てえ♡私の変態ちくびチンポが  
ドピユるところ見てえ♡♡」  
その巨根に見合うほどの  
大量のミルクが  
鈴口から飛び出します♡  
「あはあ♡母乳の香りがするのに  
すっごいトロトロお♡  
これ、もう精液なんじゃないかしら♡」  
身体に合わせて分泌液も  
変わっちゃうのかな？  
朝一番の搾り立てミルクは  
色も粘っこさも濃厚そのもの♡  
ホットミルクのようなの♡  
温かさがまた気持ちいいの♡  
私もちよっとオナニーしちゃおっ♡

ビュッ

ビュッ

ビュルルッ

あ♡♡

んあ♡



「えへへ〜ヨーコママあ  
おちちちよーだいっ♡」  
「私もお……ん……れるお♡」  
二人は馴れたように  
ヨーコちゃんの手クチンに  
むしゃぶりつきます♡

「二人とも可愛いよお♡」  
私のちくびチンポ  
また元氣になっちゃう♡  
鈴口からトロトロと溢れる  
ミルクを舐めると二人  
こんのスケべな授乳を  
見るのは初めてだわ♡  
普段三人が楽しんでる  
プレイルを知りたくて  
私はオナニーに集中します♡  
こんな機会には滅多に  
ありませんからね♡



れる♡

れる♡

ぬふ♡

ちゅぷ♡

ん♡

ん♡

ー♡

ー♡

「ヨーコちゃん、そろそろちくびチンポぶちこんでえ♡」  
「チーッヨさんの極太チンポも味わえるくらいガバガバまんこになっちゃうたんだから責任とってイカせてよねー♪」  
「そっかー二人はヨーコちゃんのチクチンで経験値を得ていたのね♡」  
「んー……どうちい？」  
「おまんこお？アナルう？」  
「あらあら♡」  
「両方のアナもヨーコちゃんの極太チンポで開発されてるなんて私に負けないくらい私ケベさんなんだから♡」  
「それにしても挿入される様なんて淫靡なかしら♡」  
「想像するのだけで興奮するのになんて……」  
「それが目の前で繰り広げられるなんて……」  
「私のチンポはもう頑張って粘ってオナニーを楽しまなきゃ♡」  
「三人の変態プレイをしっかりと見てオナニーを楽しまなきゃ♡」

早く♡  
早く♡

挿れて♡

ふー♡

ふー♡

ふー♡

ふー♡



ぐず...  
ぐず...

ぐず...

「それじゃー入れるよ〜♡」  
 「んひい...♡ つふ、太いい♡」  
 「こ、これえ♡ これなの♡」  
 チクビにおまんこ責められる  
 なんてエロすぎ♡  
 もう病みつきよ♡  
 ずぶずぶと奥まで巨根乳首が  
 入り込んでいきます♡  
 ユンちゃんと言ってる  
 乳首を挿入されるなんて  
 どれだけ気持ちいいのかしら♡  
 その変態性も相まって  
 すっごい快感を得られそう♡  
 こんな変態セックスに  
 立ち会えるなんて♡  
 神様に感謝です♡

あは♡

ぐず...  
ぐず...

ぐず...  
ぐず...

んほ♡

ほ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡



「ひゅっ!?.....あ.....  
チーシヨさん.....」♡

粘りに粘ってイキり立ちまくりの  
チンポをヨーコちゃんの  
綺麗なお尻に思わず擦り付けて  
しまいました♡  
「わ、私もまんこ味わいたいわぁ♡  
ヨーコちゃん入れていい?」  
「ああ.....いいですよ♡  
私、チーシヨさんの配信見ながら  
同じくっらいおっきいオモチャで  
オナっってるんです♡  
エソリヨなくぶちこんで  
くださあい♡」



あ..♡

あ..♡

ずっ!ゅ

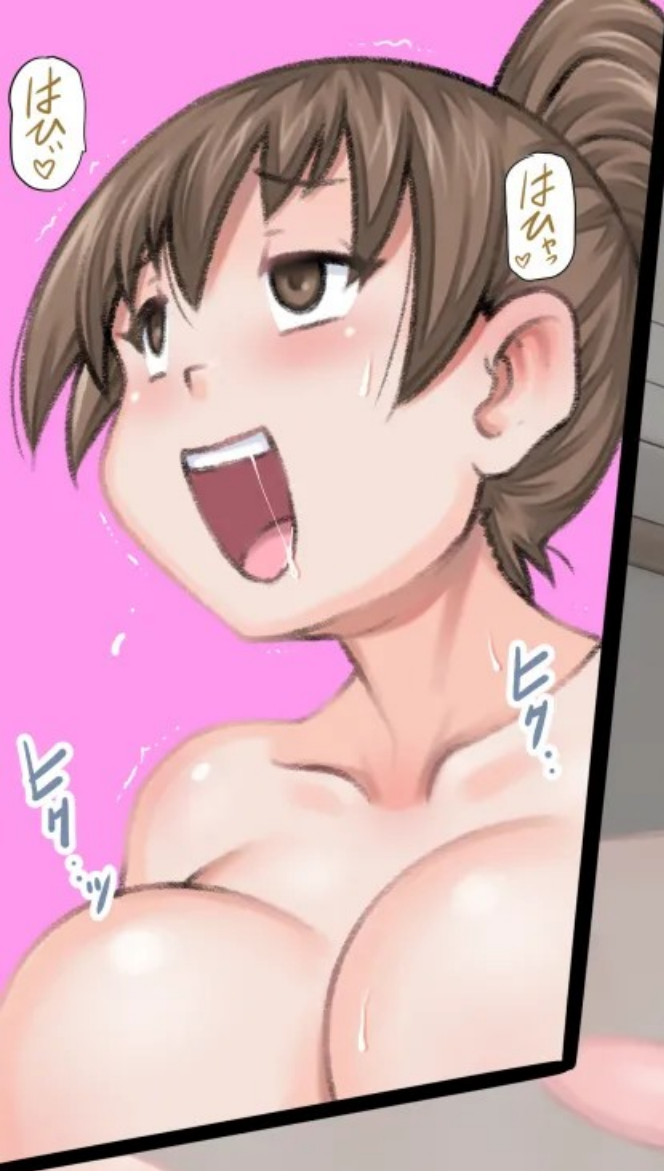
ずっ!ゅ

ぬっ!ゅ..

ぬっ!ゅ..

嬉しい申し出に早速私の  
メスチンポをお邪魔させて  
いただきます♡

ほどよい締めを感じつつも  
すんなり入るなんてかなり  
太いので楽しんでいるみたい♡  
「ああああ……憧れのチーゾさんの  
生ちんぽお♡♡夢みたあい♡♡」



はむ♡

はむ♡

ヒッ...

ヒッ...



ズ  
ズ  
ズ

昨日はたっぷりユンちゃんと楽しんで  
失神しちゃったかのよう。床で朝まで  
寝過ぎてしまった私たち。ユンちゃん  
ユンちゃんがお風呂の用意を  
してくれてさっぱりしました♡  
もちろん二人とも  
裸のまんまで♡

「お風呂ありがとねー♪  
ユンちゃんと一緒に  
入りたかったなー」  
「あははっ♡私もー♡  
でも私たちそのままエッチ  
しちゃうじゃないですか♡」  
「うーん。おっしゃる通り。  
朝ごはんも食べずに  
エッチに没頭しちゃってたかも。  
朝はパンでいいですか？」

「今日は先輩のジャムが  
食べられるから楽しみ♡」  
「お？分かってるねー♡  
二人でミックスマッシュ  
味わっちゃおう？  
…：…と思つたら  
玄関チャイムの  
音が…：…  
誰か来たみたい。」

ふき

ふき





ヨーコちゃんの  
ミルク  
来たあつつ♡  
私もイクうつつ♡



扱  
オツいてないのにいっ  
勝手にイっくちゅうっ♡



全身が気持ちいいいっつ  
全身アクメきちゅうっ♡



刺激を溜め込んでその分っ  
ドピュドピュ出てるのっ  
ひびくうっっ♡♡  
ひびくうっっ♡♡



絶頂の余韻を楽しむ間も  
惜しむかのようによ  
さらに快感を得ようと  
アリスちゃんを  
ユンちゃんを  
押し倒して乳房同士で  
擦り付け合います♡  
「あんっ♡ユンちゃんのお  
オッパイがピンピンなお♡  
キモチいい♡」  
「アリスさんのチクビも  
カチカチですよ♡  
ほら♡こんなに♡」  
絶頂し果てたはずの  
アリスちゃんの  
勃起チクチンを  
舐めて感触を  
味わっていきます♡

「いいの♡いいの♡  
オッパイ同士  
擦り付け合うだけでこんなに  
キモチいいなんてっ  
もう女の子しか愛せない♡」  
「むちやくちやに乳房を  
押しつけあって  
快感を貪る様子は  
三人のオッパイは  
もっとうだのチンポに  
なっただのチンポに  
絶頂を得るための器官に  
なっただのオッパイは  
三人の性欲に  
母性の象徴なんかに捨てて  
しまったかのようです♡



いい♡

あぁ♡

ぬりゅっ

むいっ

ぬちゃ



私とはとうとうと  
念願のコーコちゃんの  
極太ちくびチンポを  
味わいます♡  
「お……おほお……これが  
チクチンの感触う……♡  
二本同時なんてさすが  
チーシヨさんですね♡  
おねだりして二本差し  
下腹部がチクビで  
いっぱいになるなんて  
考えるだけで興奮  
してしまいます♡  
ゴリゴリと乳首に穴が  
押し広げられる快感が  
全身に行き渡ります♡  
「この二人が  
ハマる気が分るわあ♡  
又ルのミルクに  
包まれてて感触がいいの♡」

ほ……♡

お……ほ

♡

♡

♡

♡

オッパイから繰り出される  
ピストン運動が背徳的で  
その行為を受けているだけで  
ワクワクしてしまいます♡  
「あはあ♡配信やお外で  
オナニーを  
見てもらうのも  
興奮するけど、  
こんな変態  
セックスをするのも  
同じくらい  
興奮しちゃうわ♡  
変態を極めたい  
私にとつて  
とても嬉しい  
経験です♡

えっ♡

いっ♡



ずちっ

ずちっ

ずちっ

「ああ……変態……っ  
ヘンタイすぎるよお  
チージョさんっ♡♡  
変態を責める悦びに  
ハマったヨーコちゃんは  
没頭するように  
私の穴を  
穿り返します♡  
「あううう……  
も、もう抑えきれないっ  
い、いっちやいそうっ♡」

あはっ♡

はっ♡



ずちっ

ずちっ

「いぐうううっ♡♡♡  
ちくびチンポいぐのおっ♡♡♡」  
大量のドロドロミルクが  
私の中に注ぎ込まれます♡  
「ああ……キモチいい……♡  
赤ちゃんのご飯を  
ケツ穴にも赤ちゃん部屋にも  
注がれちゃったあ……♡」

んあ♡♡

イグウウ♡

ドクッ

ドクッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

どろお…

しゅー…

チクチンが引き抜かれて  
母乳が垂れ流れる感触を  
楽しみます♡  
温かくて気持ちいい……♡  
私のアナルとおまんこが  
清らかなった気分……♡  
その言葉とは裏腹に、  
パツクリ開いた赤黒い穴から  
白濁した液を垂れ流す  
光景は淫靡そのもの♡  
またムラムラと性欲が  
漲ってくるのを感じます♡

アリスちゃんとユンちゃんも  
チクチンの亀頭を重ね合わせて  
チンポの兜合わせのように  
刺激を貪り尽くします。  
「ユンちゃんのおっきい亀頭好き♡」  
私のとキスしてえ♡  
鈴口を重ね合わせていやらしい音を  
たてながらチクチンキッスを  
繰り返します。

「そ、それ刺激強過ぎっ  
い、イクよおっ♡」  
最後にズリツと鈴口を交差させて  
同時に絶頂を迎えたみたい♡  
身体を引きつきに合わせ  
チクチンから母乳が次々と  
発射されていきます♡  
セツクスは素敵だなあ♡

あ、あ、

あ、あ、♡

ぴゅっ

ぴゅっ

ずびゅっ

びゅっ

ひゅ♡

ほ♡





かなりの時間が経つたはずなのに私たちはまだエッチし続けます♡  
「いいわぁ♡ヨロコちゃんのおまんこの中気持ちいい……♡」  
こんなに立派なちくびチンポ持つてるのにすごいわぁ♡」  
絶倫とはいえこの長時間でも私のチンポは萎えず、性欲も衰えず  
チクチン美少女たちとの愛の営みに興じます♡  
「なんでえ？こんなにイってるのにまだまだエッチし足りないのぉ♡」  
「私も………疼いて疼いて仕方ない………もおセックス中毒かもお♡」  
皆、私に引きつられて身体が快感を求めちゃってる♡

部屋の中が生臭くなり、  
汗と愛液でベトベトになった身体すら  
気持ち悪さよりも  
獣じみた感情が増幅されて  
欲望のまま4人全員でまぐわいます♡





「せんばあい……  
好き……大好きです♡  
そろそろ心地よい余韻を味わいたい  
ユンちゃんにキスをせがんで  
燃え尽きたそうに何度も舌を  
絡ませ、吸い付いてきます♡  
私も応えるように唇を重ね、  
そろそろ終わりを迎えられるように  
心も身体も準備を整えていきます♡」

ちゅっ……

れろっ

れろ

すっ  
すっ



「お邪魔しまーす。おはよーユンちゃん」

わーい♡朝早くから  
アリスちゃん遊ぶに

きてくれました♡  
それとも一人の  
大人しそうな可愛い子は……？

「ほら、ヨコちゃん  
本物のチーゾさんだよっ♡」

「は……初めまして……  
あのお邪魔します……」

おど

カチヤ……

ヨコちゃんって言うのね。

それにしても  
とっても凶悪そうなオツパイ♡  
見てるだけで初対面の女の子の前で  
いきなりボツキしちゃいそう♡

おど……

アリスちゃんもヨコーちゃんも  
キスを交わして最後へと向かいます。

イキり立っているもの  
始めの頃より一回り小さくなった  
ヨコーちゃんのチクチンを扱いて  
最後の搾りができますように  
ケアをしています。



「それじゃーみんなまで最後の二搾りしちゃおっか♡」

あ...

は...

ん...

ん...

い...

は...

それに応えるように私たちのチクチンが勃起しはじめたのでお互いのチクチンを擦り付け合い最後の絶頂に向かいます♡





んっ♡

んっ♡

んっ♡

ぬる、

すっ

ぬちゅ

すっ

ぬちゅ...

すっ

んっ♡

ぬるん...

んっ

んっ

ぬちゅ

ぬる、

んっ♡

あっ♡



体の中の愛液を全て吐き出すように  
射乳と射精を繰り返す私たち♡

チクチンと私のチンポが  
思い残すことがないようにと  
最後の一滴まで搾り出して  
くれました♡

あら♡♡

んあき♡

あ♡

んんあ

おほき

おほ♡

びゅっ

びゅっ

びゅる

びゅっ

ひゅっ

どぶっ

ふし

ふんぱっ

性欲から解放され、心地よい余韻を味わう私たち。  
「みんなありがとう♡どうもいい経験になったわ♡」  
「はい♡私もです♡また集まってしましょお♡」  
「あら♡アリスちゃんもう寝ちゃいそうじゃない♡」



ユンちゃんはもうすっかり眠ってしまった様子♡  
「さすがにこんなの頻繁にはできないですね……私のオツパイも  
こんなにへたりこんだのは初めてです……」  
「うん、さすがにそうかも☆またこのまま眠っちゃうかな……」  
「……でも目が覚めたらチクチン美少女に囲まれた現状でまた……」  
「軽い疼きを感じつつもピクリともしないチンポを微笑ましく思いながら  
私も深い眠りに落ちて行きます。」  
「明日の朝への期待を抱きながら……♡」

このたびは「フリクスチージョ チクチン巡り[後編]」を  
お買い上げいただきありがとうございます。

チクチンプレイを  
思いつく限り  
詰め込みました。  
……がまだまだ  
底は深そう……。  
あと4人描くの  
大変……。

2025年2月  
のうじる定食屋



- 18歳未満の方の購読・閲覧を  
禁じます。
- この作品を無断で転載・複写  
WEBなどで配布することは  
厳禁です。







「ああっ出るっ♡♡♡出る出るっ♡♡♡」  
「見てえパンがどんどんスケベな食べ物になっていくっ♡♡♡」  
朝二番の射精の快感が駆け巡り、精液も勢いよく飛び散ります。  
「ああ……ね、粘っつい先輩の濃いい精液がチンポから  
出てるっ♡♡♡♡♡いつ見ても素敵よねアリスさん♡♡♡」  
「うんっ♡♡♡貴重なお料理射精を  
ご一緒できるなんて……」  
私たちのミルクと混じり合って……  
最高の経験だわあ♡♡♡」



二人のスケベな感想に私の  
射精はさらに拍車をかけることに♡  
いつも以上に食べ物にぶっかけられて  
とっても心地よい快感の余韻を味わえます。  
「ああ……今日の分全部出ちゃったかも♡♡♡」  
「そんな冗談が出るほどの射精量♡♡♡  
なのに私のチンポはもっと射精したいかのよう  
に疼いて仕方ないの♡♡♡」  
でもせっかくの朝ごはんだから、しっかり食べて  
エネルギー補給しなきゃだよね♡♡♡」





どろお!



わー♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

三人による食べ物ぶっかけプレイを  
ヨーコちゃんには恍惚の顔で眺めています。  
あら♡オツパイがどんどん膨らんでくる♡  
服の盛り上がり方がすごいことに♡  
「配信で見てたサーメング飯が目の前で……  
やっぱり生で見るほうがとっても美味しそう……♡」  
息荒くして私たち特製のミルクジャムパンを見て  
生睡を飲み込む様子に私たちも嬉しくなっちゃいます♡  
「さあ、みんなに気に入ってもらえるといいんだけど♡」  
ヨーコちゃん♡

それ座お行儀関係なく  
朝食を堪能します♡

♡先輩のザーメンの  
匂いが濃いく♡

♡こんなの味がするんだあ♡  
♡ホントのジャムみたい♡

♡ドロッでパンに♡  
♡しっかりついて♡

♡こぼさず食べれる♡  
♡私たちのミルクの香りも♡

♡いいよ♡  
♡性欲が漲って美味しく♡

♡感じるなんて♡  
♡不思議な感覚♡

♡二人ともトロトロ♡  
♡鈴口から溢れ出る♡

♡残りのミルクをパンで♡  
♡受け止めながら♡

♡美味しそうに♡  
♡運んでいきます♡

